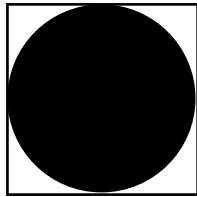


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 177

2026. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 西 村 徳 行

ニュース担当 矢 澤 聡

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

理事長就任のご挨拶

公益社団法人 日本美術教育連合理事長 西 村 徳 行

この度、第9期公益社団法人日本美術教育連合の理事長に就任いたしました。会員の皆様には、本紙面をお借りしてご挨拶申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本連合は、1965年のInSEA東京大会を契機として設立され、現在は公益社団法人として内閣府の指導監督のもと、公益目的事業を推進しております。公益法人化に際しては、当時の宮坂元裕理事長が膨大な実務を担われ、本連合の発展を牽引されました。そのご尽力により、2011年に公益社団法人へ移行することができました。また、前任の大坪圭輔理事長は、本連合が取り組む三つの公益目的事業のより一層の充実に尽力され、組織の発展に大きく貢献されました。私自身、微力ではありますが、歴代理事長の歩みを受け継ぎ、公益社団法人として関係諸団体との連携を深めながら、美術教育を通して社会に貢献する公益事業のさらなる発展に努めてまいります。

現在、次期学習指導要領の改訂に向けた議論が活発に進められております。これまでの教育では、課題を解決する過程そのものに重きが置かれてきました。しかし、生成AIが急速に普及する今日では、AIが提示する解や表現を起点として、人間が新たな価値や意味を創造していくことが求められる時代となりつつあります。このような新しい道具の登場は、教育観や学びの在り方、さらには教師像そのものにも大きな変化をもたらしつつあります。

そのような時代にあっても、本連合が大切にしてきたのは、教育の本質について互いに語り合い、知見を共有し、より良い美術教育をともに創り上げていく姿勢です。時代の趨勢を的確に捉えながら、本連合の三つの公益目的事業を柱として、新しい時代にふさわしい美術教育の在り方について、会員の皆様とともに語り合い、検討を重ねてまいりたいと考えております。

今後とも、皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第60回 日本美術教育研究発表会2026 案内

☐ 日 時：令和8（2026）年10月4日（日）9：00－16：30（予定）

☐ 会 場：武蔵野美術大学鷹の台キャンパス 12号館

対面＋オンライン（Zoom）によるハイフレックス

*発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。

☐ 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合

☐ 後 援：文化庁・東京都教育委員会（申請予定）

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください

第16回 定時総会報告

■令和8（2026）年度第16回定時総会報告■

第9期理事長 西村 德行

公益社団法人 日本美術教育連合 令和8（2026）年度 第16回定時総会議事録
対面及びオンラインによるハイブリット方式

- 1 総会開催の決定：令和8年1月25日開催、第8期令和7（2025）年度第7回理事会
- 2 総会議案及び開催方法の決定：
令和8年3月1日開催、第8期令和7（2025）年度第8回理事会
令和8年4月5日開催、第8期令和8（2026）年度第1回理事会
令和8年4月24日開催、第8期令和8（2026）年度臨時理事会
- 3 総会開催通知及び議案の公開、郵送による総会開催の告知：
令和8年4月6日発行日本美術教育連合ニュース176号に総会開催通知を掲載するとともに、令和8年4月25日にホームページにて議案を公開し、対面及びオンラインによるハイブリット方式による総会とすることを告知した。
- 4 議決の方法：対面会場での挙手及びオンライン画面でのリアクション表示の目視によって決する。
令和8（2026）年3月1日開催、第8期令和7（2025）年度第8回理事会承認
- 5 開催日時：令和8年5月10日午後3時15分～午後4時30分
- 6 開会の言葉：岩崎仁美事務局長より開会の宣言があった。
- 7 代表理事挨拶：大坪圭輔代表理事より、第8期から第9期への役員及び事業継承を確認する重要な総会であると挨拶があった。
- 8 総会成立宣言：岩崎仁美事務局長より、会員数228名に対して、委任状による出席72名、対面出席者22名、オンライン参加者30名の合計124名となり、定款第18条により、総会が成立した旨説明があり確認された。
- 9 議長選出：定款第16条に基づき、川人武氏が議長に指名された。
- 10 議事録署名者指名：代表理事、議長、監事、小林貴史会員が指名された。
- 11 審議事項
第1号議案 第9期役員選出の件
 - ①理事候補者選出選挙結果報告：佐藤牧子選挙管理委員会委員長より、総会議案書を基に第9期理事候補者選出選挙の経緯及び結果について報告がなされた。
 - ②理事選出：選挙管理委員会の報告を受けて、第8期理事長より下記の第9期理事候補者が提案され、審議の結果、全員が承認された。
笠原 広一（新任）賛成多数承認 手塚 千尋（重任）賛成多数承認
西村 德行（重任）賛成多数承認 畑山 未央（重任）賛成多数承認

三澤 一実（重任）賛成多数承認

以上、任期は令和8（2026）年5月11日から令和11（2029）年度第19回定時総会まで

- ③監事選出：第9期理事候補者準備会の推薦を受けて、第8期理事長より下記の第9期監事候補者が提案され、審議の結果、全員が承認された。

大坪 圭輔（新任）賛成多数承認 結城 孝雄（重任）賛成多数承認

以上、任期は令和8（2026）年5月11日から令和11（2029）年度第19回定時総会まで

以上の結果を受けて、第8期大坪代表理事は議長に対し、第9期臨時理事会を別室にて開催する旨を告げ、総会の休憩を要請した。議長はこれを認め、総会の休憩を宣言した。第9期臨時理事会においては、代表理事の互選と各局の理事の担当及び運営委員会の構成を確認した。

議長は第9期理事会構成員が総会に戻ったことを確認し、総会の再開を宣言した。

- ④代表理事選出報告：西村德行第9期理事より、総会休憩中の臨時理事会において西村德行理事が第9期代表理事に互選されたことが報告された。

- ⑤運営委員選出報告：第9期西村代表理事より、各局の担当理事及び第9期運営委員として17名を委嘱する旨報告があった。

第2号議案 令和7（2025）年度事業報告の件

- ①第8期活動方針報告 大坪圭輔代表理事より、議案書を基に第8期の活動状況について、活動方針に照らして提案がなされた。

- ②理事会等事業運営報告 大坪圭輔代表理事より、議案書を基に、令和7（2025）年度の理事会等事業運営について提案がなされた。

- ③公益目的事業1 研究促進事業報告 手塚千尋研究局担当理事より、議案書を基に令和7（2025）年度の教育研究発表会を中心とする研究局の活動について提案がなされた。

- ④公益目的事業2 国際事業報告 西村德行国際局担当理事より、議案書を基に令和7（2025）年度の国際会議を中心とする研究局の活動について提案がなされた。

- ⑤公益目的事業3 啓発・普及事業報告 三澤一実事業局担当理事代行より、議案書を基に令和7（2025）年度の造形・美術教育力養成講座を中心とする事業局の活動について提案がなされた。

以上について議長は、出席者に質問及び意見を求め、審議の結果、令和7（2025）年度事業報告は、賛成多数により原案通り承認された。

第3号議案 令和7（2025）年度決算及び監査報告の件

- ①貸借対照表 西村德行財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表について提案がなされた。

- ②正味財産増減計算書 同財務担当理事より、議案書を基に正味財産増減計算書について提案がなされた。

- ③財務諸表に対する注記 同財務担当理事より、議案書を基に財務諸表に対する注記について提案がなされた。

- ④附属証明書 同財務担当理事より、議案書を基に附属証明書について提案がなされた。

- ⑤財産目録 同財務担当理事より、議案書を基に財産目録について提案がなされた。

- ⑥貸借対照表内訳表 同財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表内訳表について提案がなされた。

- ⑦正味財産増減計算書内訳表 同財務担当理事より、議案書を基に正味財産増減計算書内訳表につ

いて提案がなされた。

⑧監査報告 結城孝雄監事より、議案書を基に監査報告がなされた。

以上について議長は、出席者に質問及び意見を求め、細目について会員からの質問がなされ、担当理事より説明がなされた。その後、審議の結果、令和7（2025）年度決算及び監査報告は、賛成多数により原案通り承認された。

報告事項1 令和8（2026）年度事業計画の件：

①第9期活動方針 西村德行第9期代表理事より、議案書を基に、第9期理事候補者準備会において作成された第9期活動方針について説明があった。

②令和8（2026）年度理事会等事業運営計画 同代表理事より、議案書を基に令和8（2026）年度理事会等事業運営計画について説明があった。

以上の報告に対して、議長は出席会員に対して質問及び意見を求めたが、質疑は特になかった。

報告事項2 令和8（2026）年度収支予算について：

①令和8（2026）年度予算書 畑山未央第9期財務担当理事より、議案書を基に令和8（2026）年度予算書について説明があった。

以上の報告に対して、議長は出席会員に質問及び意見を求めたが、質疑は特になかった。

報告事項4 全日本美術教育会議の件：

①三澤一実事業局担当理事より、口頭にて全日本美術教育会議の状況と今後について報告があった。

特に参加団体の意向として、本日本美術教育連合が取りまとめを担当することが説明された。

以上の報告に対して、議長は出席会員に質問及び意見を求めたが、質疑は特になかった。

・その他全体を通して会員からの意見聴取

議長は出席会員に対して、意見等の有無について諮り、発言等はないことを確認した。

12 議長解任：以上をもって川人武議長はすべての議案審議の終了と、議長の解任を宣した。

13 閉会の言葉：岩崎仁美事務局長により閉会の宣言があり閉会した。

☐議事録署名人署名捺印は省略

☐本総会議案書は連合ホームページにて公開

(2) 正味財産増減計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	4,891	1,342	3,549
受取入会金			
受取入会金	75,000	42,000	33,000
受取会費			
受取正会員会費	1,474,000	1,230,000	244,000
受取賛助会員会費	70,000	75,000	△ 5,000
事業収益			
論集広告料	160,000	160,000	0
論集掲載料	802,000	592,000	210,000
造形美術養成講座	126,311	188,065	△ 61,754
事業収入	273,968	195,023	78,945
受取補助金等			
受取寄付金	0	200,000	△ 200,000
受取利息	245	18	227
経常収益計	2,986,415	2,683,448	302,967
(2) 経常費用			
事業費			
講師料	114,752	80,000	34,752
旅費交通費	4,532	23,896	△ 19,364
通信運搬費	278,908	228,264	50,644
消耗品費	393,455	46,439	347,016
印刷製本費	1,236,620	1,110,670	125,950
賃借料	320,635	369,510	△ 48,875
諸謝金	84,808	86,800	△ 1,992
会議費	68,656	77,783	△ 9,127
委託報酬	182,000	182,000	0
雑 費	27,539	23,503	4,036
事業費計	2,711,905	2,228,865	483,040
管理費			
会議費	92,058	66,012	26,046
旅費交通費	4,000	0	4,000
通信運搬費	98,325	6,770	91,555
消耗品費	3,550	80,746	△ 77,196
印刷製本費	8,140	940	7,200
賃借料	137,415	134,790	2,625
保険料	30,000	0	30,000
委託報酬	78,000	78,000	0
雑 費	10,791	12,733	△ 1,942
管理費計	462,279	379,991	82,288
経常費用計	3,174,184	2,608,856	565,328
当期経常増減額	△ 187,769	74,592	△ 262,361
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 187,769	74,592	△ 262,361
税引前当期一般正味財産増減額	△ 187,769	74,592	△ 262,361
当期一般正味財産増減額	△ 187,769	74,592	△ 262,361
一般正味財産期首残高	3,728,022	3,653,430	74,592
一般正味財産期末残高	3,540,253	3,728,022	△ 187,769
II 正味財産期末残高	3,540,253	3,728,022	△ 187,769

令和7年度 決算報告書の詳細および監査報告書はホームページに掲載

(7) 正味財産増減計算書内訳表

令和7年4月1日から令和8年3月31日

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	内部取引等消去	合 計
	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小計			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益							
基本財産受取利息			2,445	2,445	2,446		4,891
② 受取入会金							
受取入会金	7,500		22,500	30,000	45,000		75,000
③ 受取会費							
受取正会員会費	147,400		442,200	589,600	884,400		1,474,000
受取賛助会員会費	7,000		21,000	28,000	42,000		70,000
④ 事業収益							
論集広告料	160,000			160,000			160,000
論集掲載料	802,000			802,000			802,000
造形美術養成講座			126,311	126,311			126,311
事業収入	267,968		6,000	273,968			273,968
⑤ 受取補助金等							
受取利息			122	122	123		245
経常収益計	1,391,868	0	620,578	2,012,446	973,969		2,986,415
(2) 経常費用							
① 事業費							
講師料			114,752	114,752			114,752
旅費交通費			4,532	4,532			4,532
通信運搬費	102,342		176,566	278,908			278,908
消耗品費	330,000		63,455	393,455			393,455
印刷製本費	1,087,020		149,600	1,236,620			1,236,620
賃借料	183,220		137,415	320,635			320,635
諸謝金	84,808			84,808			84,808
会議費	51,537		17,119	68,656			68,656
委託報酬	104,000		78,000	182,000			182,000
雑 費			27,539	27,539			27,539
事業費計	1,942,927	0	768,978	2,711,905	0		2,711,905
② 管理費							
会議費					92,058		92,058
旅費交通費					4,000		4,000
通信運搬費					98,325		98,325
消耗品費					3,550		3,550
印刷製本費					8,140		8,140
賃借料					137,415		137,415
保険料					30,000		30,000
委託報酬					78,000		78,000
雑 費					10,791		10,791
管理費計					462,279		462,279
経常費用計	1,942,927	0	768,978	2,711,905	462,279		3,174,184
当期経常増減額	△ 551,059	0	△ 148,400	△ 699,459	511,690		△ 187,769

(7) 正味財産増減計算書内訳表

令和7年4月1日から令和8年3月31日

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	内部取引等消去	合 計
	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小計			
2. 経常外増減の部							
当期経常外増減額	0	0	0	0	0		0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 551,059	0	△ 148,400	△ 699,459	511,690		△ 187,769
税引前当期一般正味財産増減額	△ 551,059	0	△ 148,400	△ 699,459	511,690		△ 187,769
当期一般正味財産増減額	△ 551,059	0	△ 148,400	△ 699,459	511,690		△ 187,769
一般正味財産期首残高	△ 1,284,505	△ 102,815	△ 2,890,446	△ 4,277,766	8,005,788		3,728,022
一般正味財産期末残高	△ 1,835,564	△ 102,815	△ 3,038,846	△ 4,977,225	8,517,478		3,540,253
II 正味財産期末残高	△ 1,835,564	△ 102,815	△ 3,038,846	△ 4,977,225	8,517,478		3,540,253

収 支 予 算 書

令和7年4月1日から令和8年3月31日

公益社団法人日本美術教育連合

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
基本財産受取利息	1,200	1,200	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	注1
受取会費	1,530,000	1,500,000	30,000	
受取正会員会費	1,380,000	1,350,000	30,000	注2
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0	
事業収益	850,000	850,000	0	
受取論集広告料	150,000	150,000	0	
受取論集掲載料	550,000	550,000	0	
造形美術養成講座	150,000	150,000	0	注3
受取補助金等	51,000	51,000	0	
受取寄付金	50,000	50,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	2,477,200	2,447,200	30,000	
(2) 経常費用				
事業費	1,820,000	1,785,000	35,000	
講師料費	40,000	40,000	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	
印刷製本費	995,000	995,000	0	
通信運搬費	145,000	145,000	0	
諸謝金	60,000	60,000	0	
会費	50,000	50,000	0	
賃借料費	315,000	280,000	35,000	注5
委託報酬	210,000	210,000	0	
管理費	452,000	432,000	20,000	
会費	165,000	165,000	0	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	10,000	5,000	5,000	注4
賃借料費	135,000	120,000	15,000	注5
消耗品費	2,000	2,000	0	
印刷製本費	5,000	5,000	0	
支払負担金	30,000	30,000	0	
委託報酬	90,000	90,000	0	
雑費	5,000	5,000	0	
経常費用計	2,272,000	2,217,000	55,000	
当期経常増減額	205,200	230,200	△ 25,000	
当期一般正味財産増減額	205,200	230,200	△ 25,000	
一般正味財産期首残高	3,883,630	3,653,430	230,200	
一般正味財産期末残高	4,088,830	3,883,630	205,200	
II 正味財産期末残高	4,088,830	3,883,630	205,200	

注1 新入会員15名として

注2 会員数230名として前年225名

注3 啓発事業部養成講座参加費

注4 改選年のため増額

注5 契約更新年のため増額

令和8年度 収支予算書の詳細はホームページに掲載

研究局より

■第60回 日本美術教育研究発表会2026■ 【第一次案内】

公益社団法人 日本美術教育連合理事 研究局運営委員長 手塚 千尋

本法人は1965年InSEA 東京世界大会の精神「国際理解と美術教育の前進」を基に組織され、今年で60回目の研究大会を迎えます。本大会では、口頭発表（発表20分＋協議5分）を募集します。発表者を含む全ての国内発表者は、現地にご参集いただきます。

昨年度に引き続き、英語による発表枠も設けます。海外からの発表者は、オンラインでの発表を選択できます。『日本美術教育研究論集60 2027』へ投稿を検討されている方は、本大会での発表が必須となります。投稿規程改定により、投稿資格が発表年度と翌年の2年間まで延長されましたので、第59回発表者で未投稿の方は、ぜひ日本美術教育研究論集60への投稿をご検討ください。発表会の昼休みには投稿者向け説明会を開催します。昨年度、完全導入されたオンライン投稿システムに関する説明も行いますので、今号以降の投稿を予定されている方もぜひご参加下さい。

また、今年度も参加者同士の研究交流会を昼休憩の時間帯に設けます。ぜひ対面による研究交流をお楽しみいただければと思います。交流会に参加ご希望の方は、昼食会場にランチをご持参ください。昨年度好評だった“スウィーツ交流”も同時開催したいと思いますので、お気に入りのお菓子等ご持参いただけますと幸いです。大会当日は学内の購買・食堂を利用できないため、ランチボックスの注文を別途Peatixで承ります。

皆さまのご発表、ご参加をお待ちしています。

大会概要

- ☐開催日時：令和8年（2026）年10月4日（日） 9：00～16：30（予定）
- ☐会場：武蔵野美術大学鷹の台キャンパス 12号館（東京都小平市小川町1-736）
交通アクセス <https://www.musabi.ac.jp/access/>
キャンパス案内 <https://www.musabi.ac.jp/outline/facility/map/>
- ☐開催形態：対面＋オンライン（Zoom）によるハイフレックス
*発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。
- ☐参加費等：会員・一般2,000円 学生・院生1,000円
- ☐研究交流会：無料
- ☐主催：公益社団法人 日本美術教育連合
- ☐後援（申請予定）：文化庁・東京都教育委員会



参加登録・演題登録

- ☐参加登録期間：6月22日（月）10：00～9月27日（日）23：00
- ☐参加登録：<https://peatix.com/group/7506961>（Peatix：日本美術教育連合）
*参加登録にはPeatixのアカウントが必要です。
- ☐演題登録・発表要旨提出期間：6月22日（月）10：00～8月17日（月）23：00（締切厳守）



□演題登録・発表要旨提出フォーム：<https://business.form-mailer.jp/fms/8f251a71346950>

・「演題登録・提出フォーム」より演題登録をしてください。発表要旨600字も同時に提出してください。

・発表要旨の校正は行いません。「最終原稿」としてご提出ください。

・英語による発表題目は、必ずネイティブチェックを受けてください。

・演題登録の前に、Peatixでの参加登録を済ませてください。チケット番号の入力が必要です。



□発表資格：共同発表者も含め、会員であること。

・新規入会希望者は「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に「入会申込書」を本法人HPから印刷し、本事務局長宛てに送信ください。

・身近に会員がいない場合は、下記の問合先にご相談下さい。入会時に、入会金3,000円および本年度会費7,000円の郵便振り込みが必要です。

▶入会案内 <https://insea-in-japan.or.jp/join/>

□発表区分：研究論集への投稿区分と連動します。A群・B群・C群より選択してください。

A群：理論・実践研究論文（原著論文）…査読あり、論文投稿時に英文のサマリーが必要

B群：実践報告…査読あり

C群：研究ノート…査読あり

区分	査読者数	英文サマリー	論文頁数	定義
A群	3名	あり	8-12頁	・独創性があり、 <u>学術的価値</u> を有する知見が含まれた論文。 ・研究の背景、目的、用いた研究方法（ <u>調査・分析の観点や手法</u> ）が明確に述べられ、 <u>結論や意義</u> が考察されている。
B群	2名	なし	8-12頁	・新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。 ・単なる <u>実践の紹介やハウツー</u> ではなく、 <u>実践の価値や意義</u> が論じられている。
C群	2名	なし	6-12頁	・美術教育分野における新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。 ・原著論文や実践研究報告までは至っていないが、 <u>ある程度まとまった研究や調査等の結果を記述したもの</u> 。

・本大会では「公益社団法人日本美術教育連合著作権規定（2024年6月9日施行）」が適用されます。

□発表方式：スライド、動画等を用いたプレゼンテーション

※発表者はPC等の端末を会場に持参してください。

※HDMI接続となりますので必要な方は変換プラグをご持参ください。

□発表スケジュール：9月上旬発行の『連合ニュース178号』およびHP（<https://insea-in-japan.or.jp/presentation/>）上で公開されます。

お 問 合 せ

◆大会・大会会場・論文投稿について

研究局運営委員長 手塚千尋 inseajp.research@gmail.com

◆入会・発表資格について

事務局長 岩崎仁美：iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp



事業局より

■2026年度 事業局事業計画■

事業局担当理事 三 澤 一 実

事業局では昨年度までの活動を見直し、本年度方針を踏まえて以下の事業に取り組んでいく。

〈2026年度方針〉

1. 社会において美術教育の役割が拡張していく中で、広く美術教育に携わる人に対して、これまでの造形・美術教育力養成講座を「金曜夜のずこうびじゅつ室」に改め教育力の向上を図っていく。
2. 年2回の講演会企画を通し、広い視野から美術教育を捉え直す講演を計画し、美術教育の啓発につなげていく。
3. 美術教育の現場教員をサポートする教科指導力向上セミナーについて、今後の各自治体との連携も想定し、その運営について調査研究をしていく。
4. 「全日本美術教育会議」をはじめとする美術教育関係諸団体のみならず、多様な分野の団体との情報交換、協調、協力関係を強化し、図画工作科・美術科の学びや社会における美術文化の重要性を啓発、普及する。

〈2026年度事業計画〉

1. 金曜夜のずこうびじゅつ室

昨年度までの造形・美術教育力養成講座を改め、連合会員がそれぞれ実践や研究の専門性を生かし、講師となり有料のオンラインセミナーを行う。本会員は多様な実践と深い研究に取り組んでいる方が多い。そこでの知見をオンラインセミナーで広く学校教員及び美術教育関係者に紹介し日々の実践の参考にしていただくとともに、会員の実践研究に対する評価をつくり出していく。開催日時は金曜日の夜20時から21時30分の90分とする。本年度の講座は4回とするが、今後回数は増やしていく予定である。

□開催日及び講師（予定）9月から順次開催

伊東一誉（いとうかずよ） 横浜国立大学助教、漫画家文筆家（イトウハジメ）

梶原千恵（かじわらちえ） 宮城教育大学准教授

小西悟士（こにしさとし） さいたま市立大久保中学校教諭、武蔵野美術大学常勤講師

西村徳行（にしむらとくゆき） 東京学芸大学教授、附属小学校長、連合理事長

2. 講演会

①総会記念講演

去る5月10日、総会記念講演を開催した。講師の小林恭代・平田朝一両教科調査官から、学習指導要領実施状況調査について報告と解説が行われた。

②造形教育フォーラム

造形教育フォーラムは対面開催とし、オンライン配信も行う。参加費は無料で広く一般の方々に開かれた講座として周知に努力する。

□講師（未定：決まり次第HPでお知らせ。）

3. 全日本美術教育会議

年度内に1回、全日本美術教育会議を開催し、組織化及び規約の整備を行う。

4. 国際局と連携で『世界美術ちゃんねる』の運営に協力する。

事業局のイベントはPeatixで申し込みを受けます。Peatixの「日本美術教育連合事業局」を開きフォローするとpeatixより毎回案内が届きます。

■日本美術教育連合総会記念講演会報告■

事務局担当理事 三 澤 一 実

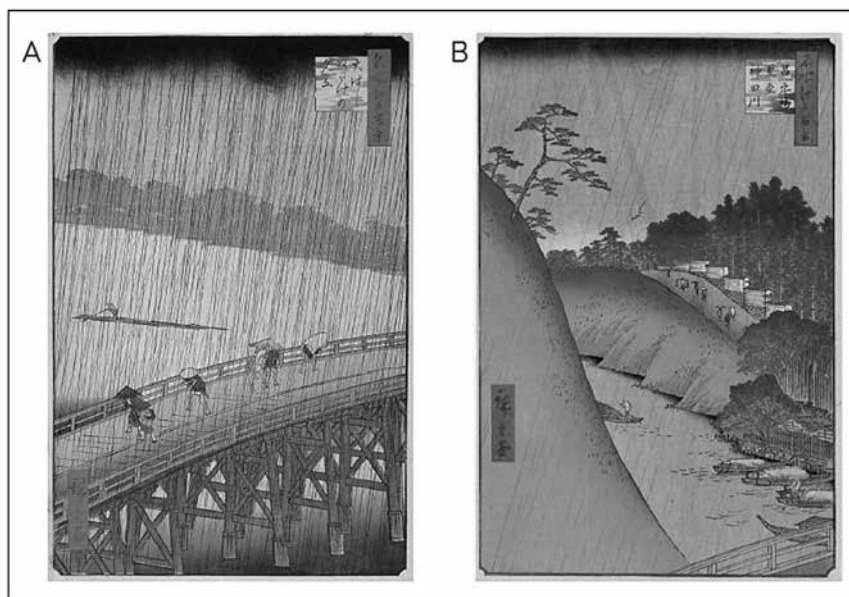


5月10日に行われた日本美術教育連合総会記念講演は文部科学省の小林恭代、平田朝一、両調査官をお招きして「学習指導要領実施状況調査の結果と指導の改善・充実」についてお話をいただきました。「学習指導要領実施状況調査」とは、学習指導要領改訂に際し現行の学習指導要領に示されている内容がどこまで達成されているかを調べ、次期学習指導要領の策定に生かすための調査です。参加者はオンライン参加を含め140名となり、

次期学習指導要領の改訂作業が始まっている中で皆さん関心をもたれている内容であったと言えます。はじめに小林調査官から図画工作科の調査結果、そして結果から明らかになった問題点が話されました。図画工作科の学習指導要領実施状況調査の結果についてはすでに公表されているので、そちらをご覧くださいいただければ詳細がわかりますので参考にしてください。

例えば「思考力、判断力、表現力等」の育成の「発想や構想に関する事項」の調査問題では、コンパスの形の特徴や働きを基に想像したことから、生き物やその周りの様子について発想や構想をして絵に表す問題が出され、「コンパスの形の特徴を基に想像し、コンパスの全体や部分の形などを組み合わせた生き物について発想や構想をしているか」：通過率75.6%（不通過の24.4%のうち、コンパスの形の特徴を基に想像し、表したい生き物を見付けているが、コンパスの全体や部分の形などを組み合わせていないものが16.6%あった。）というような結果を明らかにしました（通過率とは決められた基準を通過した率）。

「鑑賞に関する事項」では我が国の親しみのある美術作品（『大はしあたけの夕立』『昌平橋聖堂神田川』歌川広重）の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化について感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める問題が出され、「もうすぐ雨が止みそうだと感じた理由を雨・雲・空から1つ選び、形、色、動きをもとに書く」



という設問では、84.4%の通過率であったが、一方、「もうすぐ雨が止みそうだと感じた理由を雨・雲・空以外のものから1つ選び、形、色、動きをもとに書く」設問では、通過率は53.3%であり、約30%の差が生まれたことなどが話されました。このことから、絵の全体的な印象に留まらず、部分とその構成を捉え、着目する対象を自分で選んで鑑賞することに課題が見られる。という調査結果を導き出し、様々な対象の動きに着目して鑑賞したり、自分の感覚や行為を通して造形的な視点を理解したりする経験が必要である事などが話されました。

調査全体を通した「成果と課題を踏まえた改善の方向性」については、指導上の改善点として、「・児童が実際に見たり、触ったりするなどして、様々な感覚を働かせることができる活動を設定するとともに、材料や用具の効果や可能性に気付き、思いに合わせて工夫して表す過程を重視した指導を行う。・児童が自分のイメージをもちながら、発想や構想をすることを楽しめるよう題材の設定を工夫するとともに、比べて見る、対象を自分で選ぶなど、発達の段階や特性を踏まえた多様な鑑賞の活動を経験できるようにする。・児童がよりよい未来や生活への夢や願いをもったり想像したりすることを大切に、感性を働かせ、つくりだす喜びを味わえるようにする。」と示されました。

中学校美術では平田調査官から、調査結果がまだ公表されていないことが伝えられたのち調査問題の説明と分析を話していただきました。内容は小学校と同様に「A表現」の内容を「思考力、判断力、表現力等」と「技能」の観点から、「B鑑賞」の内容を「思考力、判断力、表現力等」の観点から問題が作成されており、また鑑賞の対象には「生活の中の造形」を位置付け、生活を楽しく豊かにする形や色などについての設問がありました。



「A表現」では文房具の形から発想し、楽しく動いている乗り物を発想する問題、ピクトグラムのデザインについて造形的な特徴などをもとに複数のピクトグラムの調和から全体のイメージで捉え描く問題などがありました。

今回の調査は技能についての調査を行った点もあげられました。画用紙を使って「しなやかな動き」というテーマを基に、全体のイメージを捉えながら立体作品に表す表現の問題では、しなやかな動きについて実現できている作品の通過率が32.5%と低く、共通事項の習得に課題があるとされました。

調査から「課題を踏まえた改善の方向性」について、指導上の改善点では「〔共通事項〕の視点で指導を見直し、特に造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることについて実感を伴いながら理解できるようにする。・意図に応じて創造的に工夫し表せるよう、多様な表現方法を学習する機会を効果的に取り入れるなどの指導の改善を図る。・発想や構想を豊かなものにするため、主題を生み出し表現の構想を練ることや、見方や感じ方を深めるため、作者の心情や意図と表現の工夫などについて分析的・総合的に考えることができるよう指導の改善を図る。・表現及び鑑賞の活動を通して、生徒が自分との関わりの中で、美術や美術文化を豊かに捉えることができるよう指導の一層の充実を図る。」ことが話されました。

国際局より

■ InSEAアジア地域大会2026、世界美術ちゃんねる、InSEAアジア地区評議会選挙 ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 笠原 広一

今回はInSEA地域大会、InSEA地域評議員選挙、世界美術ちゃんねる、を紹介します。

□InSEA Asia Regional Congress 2026 in Taiwan報告

InSEAでは毎年Regional Congress（地区大会）やWorld Congress（世界大会）などの大会を世界各地で開催しています。今年は5月15日（金）・16日（土）に台湾の台中市にある國立彰化師範大學と國立中興大學がInSEA、InSEAアジア地域評議会（ARC）と共同でInSEAアジア地域大会2026を開催しました。テーマは"Interweaving and Co-Creation: Diverse Pathways of Arts Education"（交錯と共創：芸術教育の多様な道筋）。二日間で約100名が参加しました。研究発表ではAI、Video Game、SEL、LGBTQ、特別支援、教師教育、美術館などに関連した実践が多数紹介され、研究方法もビジュアルナラティブや自己エスノグラフィーなど学際的なものまで多岐にわたりました。大会運営は学生チームが力を発揮し、ホールや教室の英語の司会、受付、印刷物のデザインの他、アカペラサークルや楽団による演奏、プロジェクターによる動画とエレキギターの即興ライブなど若い力が溢れ、楽しく参加できる充実した大会となりました。

□新企画・第1回「世界美術ちゃんねる」でカナダの美術教育を紹介します！

今年から「世界美術ちゃんねる」と題して、国際局と事業局が連携し、海外のゲストを招いてウェビナーを実施していきます。第1回目として7月19日（日）10：00－11：30にカナダのNSCAD大学のニコール・リー先生、同じくカナダのビクトリア大学のマージー・モサバルザデ先生をお招きします。カナダは州ごとにカリキュラムが異なります。今回はノバスコシア州とブリティッシュ・コロンビア州で、どのように美術教育が行われているか、ご紹介いただきます。

(<https://peatix.com/group/7506961/events>)

□InSEAアジア地域評議会（ARC）に手塚千尋先生が立候補されました

このたびInSEAアジア地域評議会（ARC）の評議員に手塚千尋先生（明治学院大学）が立候補されました。手塚先生は本連合理事として研究局のお仕事を担当され、国内他学会等でも要職を歴任、海外との共同研究も積極的に取り組んでおられます。ぜひその手腕をInSEAでも発揮していただき、日本とアジア、世界をつなぐお仕事に取り組んでいただきたいと思います。投票は7月8日から15日までとなります。InSEA会員の方はお忘れなくご投票ください。（<https://www.insea.org/regions/asia/2026-elections/>）



InSEAアジア地域大会の発表風景



ニコール・リー先生 マージー・モサバルザデ先生



申し込みQR InSEA投票QR

事務局より

■事務局便り■

事務局長 岩 崎 仁 美

□会員の異動

〈退会者〉本園大介様 松本浩司様 小野恵様 西口宏康様 佐藤昌彦様 橋本時浩様

(これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました)

〈入会者〉稲葉裕美様 宮坂朋彦様 大関智子様

(これからどうぞよろしく願いいたします)

□定時総会「出欠はがき」返送のお礼

令和8(2026)年5月10日(日)に開催された、令和8(2026)年度第16回定時総会に関わる出欠はがきの返送にご協力いただきましてありがとうございました。おかげさまで総会議事録にありますように、無事総会を成立させることができました。ここに改めて会員のみなさまのご協力に感謝申し上げます。

□令和8(2026)年度会費納入のお願い

昨年度より年会費が改定されております(7,000円へ改定)

令和8(2026)年度会費 7,000円 を 納入してください。納入期限 2026年8月14日(金)

【郵便振替】

(公社)日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関(ネット銀行を含む)からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

*同封の振り込み用紙をご利用ください。(恐れ入りますが手数料はご負担ください。)

*当連合からお送りする振込票には、確認のため次年度分の納入費が記載されています。

*過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いですでに納入済みの方には、失礼をお許しください。

□ホームページがリニューアルされました

よりわかりやすい情報の発信とアクセシビリティの向上を目指し、今年度よりホームページがリニューアルされました。お問い合わせ欄も新たに設けられております。入退会や研究発表など、ご質問やご不明点はお気軽にお問い合わせください。

□お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局 岩崎仁美

〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1

北海道教育大学 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 美術教育研究室

Tel & Fax :0126-32-0367(研究室直通)

E-mail :iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp